

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271202606		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと中金杉		
所在地	千葉県松戸市中金杉2-72		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年2月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今回は、当施設を見学に来られた方々から聞いた当施設の印象について述べてみたいと思います。もっとも多い印象は、「介護施設にありがちな臭いがまったくしない」というものです。消臭剤のようなものは一切使用しておりませんから、臭いがいい点は清潔さを保つことで実現しています。次に、「入居しているお年寄りの顔がいきいきとしている」というものです。当施設のリビングには毎日入居者様が集まります。リビングは楽しみの宝庫になっています。そして第三に、「職員の方がみんな笑顔で接している」といわれます。職員は、ここを自分の職場として愛着を持って勤務しています。仕事に充実感をもっています。第四に、「館内の掃除が行き届いている」といわれます。「細かい気配りは館内の掃除から」、当施設のコトです。これらのことをご自分の目で確かめてみませんか？いつでもご訪問をお待ちしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「個人の尊厳・人生の尊重・自立支援・楽しさの追求・開かれた施設・地域との交流」を「グループホームめいと中金杉の6つの運営理念」として掲げて、利用者本位のサービスの提供に努めている。理念の実践の為に、職員間、地域、家族との信頼関係作りが重要であり、施設長は日々の運営の中で率先垂範して汗を流し、わかりやすい言葉で語り掛けるなどして協力者を広げている。特に職員の育成、資格取得、公正な評価、悩みへの親身の対応などにより職員からの信頼は厚い。課題への対応については対症療法でなく、常にその原因を追究し手を打つ姿勢は特筆できる。それ等の結果が利用者家族の高い満足度に繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の掲げる6つの理念のひとつに「地域に開かれた施設であり続けること」があり、これに基づき、多角的に地域の方々と協力関係を深めている。	「めいと中金杉の6つの運営理念」として「個人の尊厳・人生の尊重・自立支援・楽しさの追求・開かれた施設・地域との交流」を掲げ、施設長は日々の運営の中で自ら範を示し、わかり易く語り掛け職員や関係者に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の代表者が地域自治会の役員として活動し、お祭りや清掃等地域の行事に参加。また、地域自治会の防災訓練にも地域の一員として参加し、自治会の1つの「組」として認知されている。	施設長は地域との交流の中で利用者を支えることを信条とし、自治会の行事、防災訓練、散歩、理美容、運営推進会議等で、地域との深い関係を作りあげている。また、自らが講師として近隣の方に介護についての講習会を開く等、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の特色とその介護の手法についての講演会の開催等を通じて認知症に対する理解や支援の方法を、身近に感じ取ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議では毎回テーマを設け活発な意見交換がおこなわれている。構成員の貴重な意見はサービス提供に生かしている。	運営推進会議は2か月に1度開催し、毎回写真入りの詳細な資料を配布する等してホームの運営状況につき理解を深めている。町内会長他、地域の方が多数参加されるのも特徴である。家族の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の介護相談員の来訪を受け入れるとともに、分からないことや困ったことが生じた場合には、躊躇することなく市の担当者に相談し解決している。	運営推進会議は毎回地域包括支援センターの職員の参加があり、年に1度は必ず松戸市高齢者支援課職員の参加もある。困った時にはいつでも相談できる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的項目については事例を挙げて学習している。徘徊防止には見守り・言葉かけで対応することを原則とし、玄関施錠は見守りの網が破られた場合の最後の安全弁として機能するようにしている。	身体拘束が必要な状況が発生する場合には必ず原因がある。その要因を見つけ出して、様々な工夫で問題解決を図ることにより入居者を安定させるなど、拘束しないで済む状況を作り出している。最近では拘束の必要な入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する講習会は積極的に参加させている。介護にあたっては、利用者の「人間の尊厳」を片時も頭からなくさないことが当施設の理念であり、職員は理解できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士による成年後見制度を研修済みであり、「成年後見制度について」の講演も行っている。個々のケースについての話し合いの中で職員にも具体的に理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結にあたっては、契約書・重要事項説明書をもとに、納得されるまで十分に説明している。解約の条件についても明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族との連絡は随時行っており、その意見・要望は絶えず運営に反映されている。市派遣の介護相談員が月1度事業所を訪れ、各利用者と対話しており、これが外部者への表明の場となっている。	家族にはちょっとした変化なども都度電話する等、細かな気配りが家族との信頼関係を作り出している。連絡事項は簡単にノートにメモを残している。家族の来訪も多く、アンケートには感謝の言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との対話を重視し、相談や意見の場を設けている。悩み事に対しては、必ず、納得のいく答えを瞬時にしている。よい提案については、運営に反映させている。匿名による職員の意見箱を設置している。	施設長は職員からの提案や相談に対し、共に考えてタイムリーに応えている。職員の悩みには寄り添い、資格取得時には自ら指導する等温かみのある対応で、職員の信頼は厚い。働きやすい職場との職員から声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態などは、職員の給与決定に関する参考資料として代表者に提出されており、昇給・賞与などの決定においては職員の普段の勤務態度、自己評価が反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修の参加については積極的に奨励し便宜を図っている。管理者は資格取得のための指導・援助をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・認知症研修会に管理者が出席し、同業者と交流を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、本人と面接しその中から本人の不安や要望への生の声を聞き提供するサービスを決定している。場合によっては体験入居を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立ち、ご家族から本人のこれまでの生活状況の説明を受けるとともに、施設で対応できることとご家族の協力を必要とすることとを分けて説明し、その後の円滑な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接により、本人がまず必要としている支援を把握し、ご家族とさらに話し合ったうえで必要な支援を見極めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の残存能力に応じた活用を常に心におき、本人が一方向的に介護を受ける立場にならないよう絶えず配慮し、入居者と職員との共同生活関係を実現している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし、本人の変化に対しては、家族と連絡をとりつつ、ともに本人を支えるという関係であることを失わないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の訪問に対してはおもてなしの心で接するようにしている。電話の取り次ぎには便宜を図るようにしている。	友人や近所の方などが時折り訪れてくれる。散歩の際、庭のお花をくださる方、訪問美容師の方など入居してからの地域の方との馴染みの輪が広がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるようにリビングテーブルの配置や着席位置に工夫をし、必要に応じて職員も会話の中に入るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対し、その後の様子などを電話で伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。本人から聞き取ることが困難な場合は、これまでの関わりの中で、本人が元気であれば望んだであろう内容で介護にあたっている。	入居者一人ひとりに職員全員が関わり、毎日合い言葉の「笑顔で」「目を見て挨拶」のコミュニケーションの中から思いや希望を把握しミニミーティング等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過について、ご家族・担当介護支援相談員・介護にあたった職員などからの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼間は、リビングルームで過ごす人が多く、各入居者の1日の過ごし方、心身の状態は絶えず把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の協力が必要な場合には、家族に来てもらい、本人を交えていろいろな案を検討するようにしている。本人がより良く暮らすためのアイデアはミニミーティングで提案し、それが介護計画に反映されている。	計画担当者が、本人、家族の希望に加えユニット毎の毎朝のミニミーティング等での意見を反映し介護計画を作成している。日頃の様子や夜勤担当者からの聞き取りにより、月に一度計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には各職員が気付いた事を自由に書き込んでもらい、職員間での情報共有に活かされている。さらに管理者による実践や介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に対応したサービスを提供することを重視し、既存のサービスにとらわれない柔軟な対応を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書ボランティア・詩吟の会・カラオケの会の定期的訪問により、心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診にあたっては、家族の希望を伝え、家族が納得したうえで治療が行われるようにしている。家族の要望があればいつでも治療内容についての説明が受けられる仕組みになっている。	家族の希望に沿っているが、急変時には24時間対応が受けられる協力医療機関の訪問診療医を、全員がかかりつけ医としている。訪問看護師の来訪もあり、本人、職員共に安心出来るよう連携体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関しては、細心の注意を払い、24時間対応で介護職→看護師→医師と連絡され、看護師の指示を受ける体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内のソーシャルワーカーと必要に応じて連絡を取りあっている。管理者が病院関係者と面会し入院期間などの説明を受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に至った場合について一般的な説明を行い、入居後その時が近づいたときに、協力医療機関立ち会いの下で今後の介護のあり方について十分な話し合いを行うようにしている。	看取りを希望される方には、終末期が近づいた段階で、入居者家族とかかりつけ医を交えて今後の方針について十分話し合い、同意書を交わして取り組んでいる。職員は本人が住み慣れたホームで自然に最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練はしていないものの、緊急時対応のマニュアルを作成し職員に徹底している。職員全員が「AED」使用の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難方法についていろいろな場面に対応した方法を検討している。夜間対応の避難訓練も実施済み。地域自治会の防災訓練に参加し協力関係を築いている。	避難訓練は年3回。5月は消防署、地域の自治会の協力を得て、9月は夜勤専門に、11月は自主防災訓練を行っている。日頃から利用者も職員も防災意識が高く、運営推進会議でもハザードマップや避難訓練の様子を取り上げ報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則としている。また、言葉かけの関わりについては、職員ミーティングでテーマに取り上げ勉強している。	施設長は「入居者の尊厳の保持」などを掲げたホームの運営理念と「笑顔で」「相手の目を見て」等5つの「心得」をいつも職員に語り掛け、本人の気持ちを尊重しコミュニケーションを大切にされた接遇を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに耳を傾け、その希望を理解することから始まるものであることを職員たちは理解しており、これを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの定員が少人数(9名以下)であることを活かし、一人ひとりの生活スタイルを可能な限り尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容については、地域の美容院と連携し第一線の美容師による訪問理美容を実現している。本人の希望があれば、美容院の椅子に座っての美容も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒にとり、食事の配膳・下膳・食器洗い・収納なども利用者と職員が一緒に行っている。	食事は各人に合わせた食事形態で、併設の有料老人ホームの厨房で調理し提供している。職員と一緒に口腔体操や口腔ケアを行い自分の口で味わう楽しみを支援している。できる方には準備や後片づけを一緒に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の献立は栄養士が作成しており、カロリーバランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態にあわせて提供している。水分補給には細心の注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。必要に応じて、歯科衛生士による口腔ケアを受けることができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にはトイレが設置されており、自分のペースで自由に排泄ができる。本人の排泄サイクルを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすようにしている。	排泄パターンを職員で把握し、便意を職員に伝えてくれた時には感謝の気持ちを伝え、自力で排泄する意欲を持てるよう工夫している。各居室にトイレが設置されており、自分の部屋で落ち着いて排泄できているのもホームの特徴である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響については全職員が理解している。排便チェック表で確認をしながら、水分補給・ヨーグルト・牛乳など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には週2～3回のペース。本人の身体の状況のみて変更することもあり。入浴の順序の希望に応ずることはできるものの、入りたいときに入るとい希望には浴えていない。	週日は1日2人くらいずつゆっくりの入浴で、一人週2回～3回入浴している。日曜日は本人職員ともにのんびり過ごすように、原則入浴しない日としているが、入居者の事情を考慮して対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれるよう支援している。居室における温度・湿度調節については絶えず注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について十分に理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描くのが好きな人、歌を歌うのが好きな人、書道の得意な人など多彩な才能の持ち主が多く、得意なものを活かす工夫を支援している。カラオケ器・電子ピアノの設置もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダで過ごしたり、近道を散歩したりしている。紅葉や桜の時期にはみんなで見学に出かけている。施設から離れた場所の希望については家族に協力をお願いしている。	車椅子での移動の方が多く全員で外出は難しいが交代で出かけるようにしている。近所の散歩では地域の方との交流ができ、いきつけの美容室では整容だけでなくお庭の花を見せていただくなど、日常の何気ないひとときを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解している方に対しては、職員は干渉せず本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が連絡をとり、そのうえで本人が電話口に出て会話ができるように支援している。ハガキ・切手等は常時購入してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇や庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置し季節感を演出している。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流すようにしている。	リビング等共用の場所はいつも掃除が行き届いており、懐かしい童謡や歌謡曲等のBGMが聞こえている。職員と利用者で作った季節感のある大きな貼り絵や行事の写真等が壁に飾ってありリラックスできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファを設置し少人数で一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れた品々、馴染みの家具等をお持ち頂くようお願いしている。居室には思い出の写真、趣味の絵を飾り、自由に過ごせるよう工夫している。	居室には収納が十分にあるためすっきりと片付いており掃除も行き届いている。居室には絵やお花を飾るなど利用者それぞれの好みに合わせ居心地よく工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		